

「企業の生き残り」

日曜日の夜、フジテレビの Mr.サンデーという番組で、缶メーカーのことを取り上げていた。愛知県にある創業116年の缶メーカー、側島製罐。この会社の主力商品は、海苔や煎餅などの缶で、年々需要が下がっていたという。この番組によると、従業員の働く意欲も下がっていたらしい。さらに中小企業で課題となるのが後継ぎ。社長の息子、石川 貴也さんは政府系金融機関や役所で働いていた。その仕事に働く喜びを感じ、後を継がないことを考え始めていたらしい。その中、父親が体調を崩したことで、はじめて現実に向き合うことになった。それまでは中小企業を支援してきたが、自分を育ててくれた側島製罐には何もお返しできていない、自分が継がなかったら、従業員はどうなるのか。そう思ったとき、勤め先に退職届を書いたという。(経済産業省中部経済産業局HPより引用)

会社の事業が回復するきっかけとなったのがカラフルな缶。倉庫整理にあたり、10年前に社内企画で作って、売れ残っていたカラフルなキャンディー缶だ、そのことを、ツイッターでぼやいたところ、多くの人々が注目した。写真映えする商品だし、最近「推し活」のイメージカラーに合うとして売れることもあった。時代の新しい需要に合ったのである。さらに、缶は写真や思い出の品物をしまっておくことに使われることが多い。缶の可能性を追求し、想いを守るプロダクトとして新たな価値をつくりだした。この企業のミッションは「世界にCanを」、文字通り「缶」と「できる」の意味の「Can」をかけている。老舗の中小企業ながら従業員同士が非常にフラットに意見を出し合える会社である。また、助け合いの精神も非常に強く浸透していて、誰かが声を上げればみんなでバックアップするのだという。

現状維持や前例踏襲では、変化の激しい現代を、企業として生き残っていくのは難しい。新たな発想をもち、付加価値をつけることなどが、今の企業には求められる。そのためには、時代のニーズを探し、多くの意見を取り入れ反映することが必要である。それは企業ばかりではなく、学校にも求められていることでもある。

11月22日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 三つの歯車A、B、C、Dがある。歯数は、Aが48、Bが32、Cが60、Dが36です。AとBがつながり、BとCがつながり、CとDがつながっています。Aが12回転したとき、Dは何回転するのでしょうか。